

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	西原 希里子 ( にしはら きりこ )
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 2年
発表年月 または事業開催年月	2022年 10月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会第48回大会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	西原希里子・三井梓実・姜来娜・嶋田洋徳
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	青年期における過剰適応傾向と般化されたプライアンスがコーピングの実行に及ぼす影響
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p><b>【目的】</b> 本研究では、過剰適応と般化されたプライアンスがコーピングの実行に及ぼす影響について検討することを目的とした。</p> <p><b>【方法】</b> 研究協力者 公立中学校に在籍する中学生 178 名、公立高等学校に在籍する高校生 34 名。 測度 フェイス項目 (年齢, 学年, クラス, 出席番号, 年齢, 氏名), 過剰適応 (青年期前期過剰適応尺度; 石津, 2006), 般化されたプライアンス (GPQ-C; Salazar et al., 2018) を本研究にて翻訳, コーピングレパートリー (TAC-24 中学生・高校生版; 増田他, 2010), コーピングの柔軟性 (TAC-24 中学生・高校生版; 増田他, 2010) を一部改変して用いた。 倫理的配慮 本研究は早稲田大学の「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」の承認を得て実施された (承認番号: 2021-009)。</p> <p><b>【結果・考察】</b> 各変数間の相関関係を調べるために、各尺度得点を用いて Pearson の相関分析を行った。その結果、中高生ともに、過剰適応において般化されたプライアンスとの間に中程度の正の相関が示されたものの、コーピングレパートリーおよびコーピングの柔軟性との間に有意な相関は認められなかった。過剰適応と般化されたプライアンスがコーピングレパートリーおよびコーピングの柔軟性に及ぼす影響を検討するために、階層的重回帰分析を行った。その結果、中学生において、コーピングの柔軟性に対して般化されたプライアンスの交互作用の有意な負の標準回帰係数が得られ、弱い効果量を示し、R<sup>2</sup> の増分が有意であった。このことから、過剰適応傾向が高い者は、コーピングを知識として獲得していても、般化されたプライアンスによって適切に実行できていない可能性が確認された。これまで、過剰適応への支援は行われているものの、個人内の心理的ストレスの低減はみられていないことや、支援の効果が維持していないことが課題であった。したがって今後は、過剰適応傾向が高い者のストレス反応が高まる要因の1つとして考えられる、般化されたプライアンスの程度を低減させるための介入方法を検討する必要性が示唆された。</p>	

※無断転載禁止